

広報清内路



版からかわる村政

清内路村役場

〒395-0401

清内路村 375-1

TEL: 0265-46-2001

FAX: 0265-46-2016

E-mail: info@seinaijijyu.jp



合併問題研究会が最終報告書を提出

- 合併問題は新たな局面へ 「合併について阿智村と話し合う場を」 -



6月5日、合併問題研究会から桜井村長に、最終報告書が提出されました。

合併問題研究会は、村議会議員、公共的団体・有識者の代表、公募委員から構成され、平成18年2月の初会合以降、12回の研究会のほか、住民説明会、学習会の開催など1年5ヶ月間に渡り、精力的に活動されてきました。

この間には、研究会の中間報告を受けて、「村づくり指針」が策定されるなど、単に合併問題の議論研究にとどまらず、清内路村のあり方を見つめ直す端緒としての役割も果たしていただきました。

最終報告書は、役場応接室にて、原利正会長、原和信副会長、樽沢和子副会長から、桜井村長に手渡されました。

提出にあたって、原利正会長から「各委員は合併に対して様々な考え方を持っているが、率直な議論を通じて、『阿智村と合併について話し合いの場をつくるのがよいのではないか』とする意見を委員の総意としてまとめた。時間をかけて議論した上でこの報告であり、村長と議会は、しっかりと受けとめ、『清内路村』を間違いないよう導いていただきたい」とのあ

いさつがありました。

それに対し桜井村長は「長い期間に渡り真剣な議論をしていただいた研究会からの最終報告を重く受け止め、住民の皆様の意向もお聞きしながら、よりよい結論が得られるようにしてまいりたい」と述べ、あらためて委員の皆さんへの感謝の意を表しました。

提出後の懇談では、正副会長から、「700人の村で、研究会主催の学習会に120人が集まったのは素晴らしいことだった」「自立の道を行きたいという意見の人もいる。そういう人も良かったと思えるようにしてほしい」「研究会の役割は終わるが、合併問題はこれからが正念場」などの話しもあり、桜井村長も真剣な表情で聞き入っていました。

会場には、報告書の提出の様子を取材するため、NHKなどの報道各社が多数詰め掛け、清内路村の合併問題に対する世論の関心の高さが感じられました。

今回提出された報告書の内容を説明するため、住民説明会を開催します。

住民の一人ひとりが合併問題に対する理解を深め、今後の地域づくりを考えることは大変重要です。説明会では、皆様の合併問題に対するご意見も伺いますので、ぜひご参加ください。

住民説明会の日程

6月13日(水)

午後1時30分 老人福祉センター

午後7時30分 老人福祉センター

6月14日(木) 午後7時30分 上公民館

「清内路の明日を語る会」開催

5月25日に、実行委員会の主催により、「清内路の明日を語る会」が老人福祉センターで開催されました。

「語る会」は、村民を中心に集まった約120名の聴衆を前に、阿智村の岡庭村長が進行役になり、3月まで県から清内路村に派遣されていた池内武久さんと、やらまい改えまい懇談会で会長をされていた桜井弘志さんが、清内路村における改革の歩みを語る形式で行われました。岡庭村長は、時には会場の住民や役場職員を指名してコメントを求めるなど、短い時間ではありましたが、内容の深い会となりました。

当日の話題から、いくつかを紹介いたします。

積極的な情報公開

(池内武久氏) 16年当時、財政シミュレーションを作ったところ、このままでは財政再建団体に転落することに

が分かってきた。どこまで村民に公表するか役場で激しく議論したが、住民の信頼を取り戻すには、徹底的に公開した方がよいという結論に達した。

(桜井弘志氏) 住



民説明会で財政状況の説明を受けたときには、最初何を言っているのか分からなかったが、だんだんとこれは大変なことだと気がついた。しかし、次第にただ批判するだけではなく、私たちも何とかしなければと思うようになった。

(岡庭一雄村長) 村民と議会と行政は三位一体だが、そのために大切なのは情報公開。ほかの自治体では厳しい財政状況や借金を隠すところもあるが、そういったところでは、明らかにしたときに住民の批判も大きくなる。その点清内路村は早くから情報公開したため、一時のショックは大きかったが、その後すぐに住民は立ちあがることができた。

やらまい改えまい懇談会の活動

(池内武久氏) 当初、懇談会なんて議会と同じではないかとの声もあったが、住民が地域のために自分たちで動く組織だと説明した。

(桜井弘志氏) 最初に懇談会では、一番清水に目をつけた。農産物販売所の設置の検討を通じて、今の「一番清水の会」の活動につながった。懇談会では2つの分科会を設け、ほづ葉寿司給食や案内看板など様々な分野の課題を研究して村に提言し、自ら活動した。漬物の加工グループなどは、懇談会が終わった現在でも活動が続けられている。

地域づくりについて

(岡庭一雄村長) 清内路村は夜校コンサートなど外への情報発信を積極的に行っている。新聞

で清内路の記事を見ることはとても多く、日本で一番元気な村だと思われる。

(池内武久氏) 清内路にはリーダーになる人がいないと言われる。たとえ合併しても、よその人が清内路に来て何とかしてくれるわけではない。リーダーはいなくても、一人ひとりが自分の持ち味を活かして活動を持続することが大切。



(桜井弘志氏) 今日ここに集まった皆さんも、ぜひ地域づくりの活動に参加してほしい。また、岡庭村長には、ぜひ清内路村と阿智村の合併について、話し合いの場を設けてほしい。

(岡庭一雄村長) この場では合併について述べることは待ってほしいが、清内路村と阿智村は運命共同体だと考えている。清内路は自信を持って村づくりを進めてほしい。

県の合併審議会会長が来村しました。

長野県では4月に「県市町村合併審議会」を設置し、県内市町村の合併のあり方について協議を進めており、会長の横道清孝氏が6月6日に現地調査のため本村を訪れ、桜井村長と懇談しました。

桜井村長からは、小規模村の実情について説明して理解を求めるとともに、小規模自治体への県・審議会の支援を要請しました。